

会 議 録

会議の名称		第 5 回豊中市環境審議会(第 1 4 期)		
開催日時		令和 5 年(2023 年)8 月 30 日(水) 10:00-11:45		
開催場所		WEB 開催	公開の可否	可・不可・一部不可
事務局		環境部ゼロカーボンシティ推進課	傍聴者数	1 人
出席者	委員	猪井博登委員、加我宏之委員、小島理沙委員、諏訪亜紀委員、田中晃代委員、前迫ゆり委員、青木幸生委員、山本直子委員、井波洋委員、重長寿典委員、熊本英子委員、廣田学委員		
	事務局	環境部：糸井部長、道端次長 ゼロカーボンシティ推進課：片羽課長、湯浅主幹、 環境総務係：北郷係長、今川主査、盛村主査、菅主事、河瀬 地球温暖化対策係：石原係長、上田主査 減量計画課：立谷課長、西岡副主幹 家庭ごみ事業課：溝口課長、北野主幹、鈴木補佐、三島補佐、瀬口係長 美化推進課：吉村課長 公園みどり推進課：日高補佐、奥田係長、益住主査、宇佐美主査 環境指導課：小坂課長、中井補佐、多々主幹、藤井主査、		
	その他	エヌエス環境株式会社		
議 題		1. 第 3 次豊中市環境基本計画の進行管理 ・(報告) 令和 5 年度(2023 年度)協働の取組みに関する意見交換会実施結果 ・環境報告書「とよなかの環境～2022 年度 速報版～」		
資 料		資料 1：令和 5 年度(2023 年度)協働の取組みに関する意見交換会実施結果 資料 2：とよなかの環境～2022 年度速報版～ 資料 3：「とよなかの環境～2022 年度速報版～」への環境審議会評価(案) 参考資料 1：令和 5 年度「とよなかの環境」作成スケジュール 参考資料 2：第 14 期環境審議会名簿 参考資料 3：豊中市環境基本条例 参考資料 4：豊中市環境審議会規則		
審議等の概要 (主な発言要旨)		別紙のとおり		

1. 第3次豊中市環境基本計画の進行管理

○会長

第5回豊中市環境審議会を開催したいと思います。今日の審議ですが、6月19日に開催されました協働の取り組みに関する意見交換会のご報告があるということで、1点目の審議に入りたいと思います。

もう一点は、環境報告ということで、とよなかの環境2022年度速報版についてお話ししたいと思います。特に、環境審議会の方からの評価、速報版の構成の見せ方の工夫について、意見を出し合えればと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。まず一つ目の案件ということで、事務局よりご報告お願いいたします。

○事務局

資料1の説明

○会長

当日ご参加いただいた方として、審議会委員に参加していただいたのですが、意見交換会についてお話しできることがあればと思います。よろしく願いいたします。

○委員

従来であれば例えば、3Rの取り組みや生物多様性の取り組み、その取り組みそのものがテーマだと思うのですが、今回は環境情報の提供という活動の側面、一部分が関連するのではないかと思います。

各団体の皆さんに、何か問題があったということではないですが、今のご説明いただいた、まとめの資料を拝見させていただいて、少しまとめ方が違うのではないかと、環境情報の提供という視点で、まとめないといけないのではないかと気がいたしました。

例えば、課題がいくつか挙げられていて、担い手の問題や高齢化などがありましたが、情報発信をされているという視点で言うと、担い手に情報がいきわたっているのかどうか、もっとこういう発信をこれからしていかなければいけないのではないかと、というところの議論には及んでいないのかなと思いますので、そこを意識したまとめ方が必要だと思います。

それから、環境情報の発信というとSNSやホームページで、ということをお願いがちなのですが、今回の市の方で意識されたのは、その活動を通じて伝えていくことも環境情報の提供だと定義をされたので、その定義のこともしっかりと打ち出していないと、参加していない方には伝わっていかないのではと思いました。意見交換会自体は活発な議論がなされたと思いますが、そのまとめ方をいつもよりも意識、配慮する必要があるのではないかと思います。

○会長

まとめ方についてご意見がありましたが、事務局の方はいかがでしょうか。

○事務局

そういった視点も必要だということを改めて感じたところです。確かにこれからに及んでいない、次につながるようなまとめ方をしないといけないということだと思います。今いただいた意見を参考に、次につながるような、こういう課題が洗い出されたであるとか、これからこういうふうな取り組みにつなげていくというような、そういったつながり、次へのステップを踏まえたようなまとめ方にするように考えていきたいと思っています。

○会長

丁寧にまとめてあるとは思いますが。ただ、最後の、担い手不足などは通常からずっと言われていたことなので、その書き方をもう少し課題を深めていく必要があるのではないかと、いったお話ではなかったでしょうか。

○委員

環境情報の提供や、情報をどうやって誰に伝えるのか、伝わっているのか、今後どう伝えていかなければいけないのかという書き方になっているのでしょうかといったことや、事務局のおっしゃった、次へつながるといふ言い方なのかもしれないですが、単にこれからも課題解決に向けてやっていきますというよりは、その課題解決に向けてどういった発信が必要なのかを考えていかなければいけないという、表現の問題なのかと思います。

○会長

私自身も参加して思いましたが、各団体いろいろと発表していただきましたが、それぞれの団体ごとに、例えば若い方が多い所は SNS を活用する、ミドル世代の方が多くはイベント参加で情報発信を主にやっておられる、高齢世代の方が多くはパネル展示など、各団体によって伝えていかれる手段とか、表現方法が全然違うという印象がありました。

ですが、それはそれでしっかりと伝わっていて、例えば環境の活動の中で仕事を抱え過ぎている問題があるけれども、それをできるだけいろんな方にお伝えすることによって抱え過ぎないようにする。あるいは、タイムリーな情報発信をしていきたいという思いは、SNS であっても、face to face の伝え方であっても同じ思いかと思っています。それから、それぞれの活動の団体の認知度というか、何をやっていて、どういうことを達成したいのか、目標として持っているのかというようなことをお伝えするのに、それぞれが情報発信をしていくというようなことも結構あったかなということで、これは環境情報に限らずまちづくり活動も同じで、協働することの意義のようなものがあつたのではないかとということが1点です。

それともう一つ、どの団体も子どもを通して保護者へ訴え掛けたり、あるいは、祖父母に訴え掛けたりというような動きがありました。これは、環境情報そのもの自体が難しい内容も結構あって、その部分を、子どもを通すことで若干分かりやすく情報を伝える、しっかりと情報を伝える、易しい言葉や表現の仕方をするなど、そういうことで広めていく、伝わっていくというようなことも、あるような気がします。

子ども関係も含めまして、他の委員の方で、このまとめ方で何か思われることございますか。

○委員

この意見交換会にはいろんな世代の方が関係されていて、赤ちゃんをお持ちの世代から、小学校教育、あるいは公園とかの緑化に関わっている方など、さっきご説明にもあったように、いろんな世代がここに集っておられます。それで、そこに出てくる「こうしたらいいのに」というのは、個々に発信しているけれど、おそらくつながっています。赤ちゃん世代をお持ちのお母さんたちは、今はお洋服の交換会などが前面に出ていますが、実は子どもたちを安全に自然に触れながら遊ばせる場がもっとあったらいいなといったこともベースにはあって、そこを引き受けるというよりは、そこに徐々にいろんな世代の人が関わることによって、文科省がいうところの保幼小の接続のように、それぞれの世代が成長する中で、そこで支援する世代の方も一緒になっていくという、相互作用のようなものがまとめの中うまく出てなかったかと思います。5団体さんはそれぞれの活動をされているけれど、実はつながっているというか、トータルとして豊中市の環境が世代間を通じていい形で展開していくというところが狙い・目標としてあって、SNSや、face to faceなど形はいろいろですが、トータルとしては豊中市の環境が、赤ちゃんから小学校の世代の中で、それをアシストするミドル、シルバーエイジの方が楽しみながらサポートする、そういう相互作用がいい環境につながっていくということを狙っておられるとすると、そこがうまく出てなかったような気がします。

○会長

相互作用というお話がありましたが、情報発信のみだけではなくて、そこから始まったいろんなコミュニケーション、例えば赤ちゃんからだったら、子育ての悩みを聞いて欲しい、といったところから始まって、環境問題から子育ての悩み、孤立しないようにという話や、ごみ減量の話を小学校で行ったら、それだったら牛乳パックの活動をやってみよう、ストローの活動やってみようということで子どもが中心になって親に伝えるといった、そういうやりとりのことでよろしいですか。

○委員

それぞれが発表されていることが実はいい形で、全体としてはある大きな、子育て世代の

方も、ミドルエイジも、シルバーエイジも、うまく相互作用することによっていい方向に行く。それが1方向ではないというのは、まとめている方や、現場で発表されている方はそういうつもりでおられるのだらうと思いますが、受け止める方が、ただみんなが発表しているだけのように受け止められないように、それがつながっている、循環している、相互作用して、こんな形で新たに活動が展開していったなど、そういうところのニュアンスや方向性が出ればいいです。それぞれが発表されていることはつながっているのだらうというふうに思っていて、そこがもう少し出たらいいですし、もしそうになってないとすると、そういうところを狙いたいと思っているので、よろしくお願いします。

○会長

他に何かご意見があったらお話しくだされればいいかなと思いますが、いかがでしょうか。このまとめ方に関してでもよろしいですし、この意見は協働にとってはとても意義あることだという話でも構いません。これは次の報告にもなりますので、審議会の評価にもなると思いますので、ぜひご意見言っていただければと思いますが、いかがでしょうか。

○委員

昨年度この取り組みをご一緒させていただいたときにも感じていたのですけれども、公助、公が助けるというものと、民間のプライベートセクターと一緒にいる共助型というやり方がありますが、豊中市さんの場合は公助と共助が一体となってやられている取り組みで本当に素晴らしくて。これは行政コストが抑えられるやり方だというような分析結果なども出ておまして、非常に先駆的な素晴らしい取り組みであるというふうに思っていましたのでとても応援しています。今日お話があったように、かなり最先端のこと言われていて、次どうするのかだとか、課題をどういうふうに考えるかが大事、のように、もうかなり具体的なところまでお話が来ているという意味でも、非常に今、先駆的だと思っており、ぜひ全国的にもこういった取り組みが広がるべきだと思っていますので、そのリーダーとしてこれからも発展して行ってほしいと思います。

○会長

ありがとうございます。応援メッセージというか、本当に心丈夫なお話だったと思います。他に何かご意見ないでしょうか。いかがでしょう。アンケートのほうも採ってくださっていて、それに関してもご意見、ちょうど良いというようなご意見もありまして、継続して今後もこういう意見交換会というのを実施しながら報告していくという形になると認識してもよろしいですか。事務局のはいかがでしょう。

○事務局

意見交換会のほうは来年度も継続して実施していく予定をしておりますので、皆さま

うぞよろしく願いいたします。

○会長

次の案件ですけれども、資料としては、資料 2、とよなかの環境 2022 年度速報版ということと、資料 3 の、環境審議会の評価案ということで、これは両方一緒にご説明いただいたほうがいいのかと思います。ご説明のほどよろしく願いします。

○事務局

資料 2、資料 3 及び参考資料 1 の説明

○会長

ありがとうございます。盛りだくさんの内容なので順番に押さえていきたいと思います。三つあったなかで、一つ目として、とよなかの環境の作成スケジュール等について、ご意見があるようでしたらお話ししたいと思います。

○委員

例年とスケジュールが違うのでいくつか確認をしたいのですが、いつも審議会が 1 回行われて、そこで確認されたものが中間評価として公表されていると思いますが、今回は先に公表されています。いつもであれば先に審議会評価を議論して、それが中間評価でも出されているのですが、今回は審議会評価がない状態で公表されており、審議会評価はいつ公表されるのでしょうか。

それから、この中間評価でグラフ等の載せているものについて、以前であれば、審議会でも議論をして中間評価に公表しているのですが、年度末の公表のときには、そこについては再び蒸し返さない、もう確定事項ですよという前提で話が進んでいたと思いますが、今回、ここについての考え方はどうなっているのか教えていただきたいです。

○事務局

ご意見ありがとうございます。おっしゃるとおり、今回、速報版には例年、審議会からの評価も掲載しておりましたが、今回は、速報値として、各目標の進捗状況等を掲載させていただきまして、要因分析等も掲載させていただいたものを公表しております。ご質問いただいた審議会の評価の公表時期ですが、次回、環境審議会が行われまして、そのときに年度評価版の案をご提示させていただいてご意見いただきますが、例年、年度評価版にも審議会評価を掲載しておりますので、そこに同じように掲載させていただきます。また、市民意見の募集を行わせていただいて、またそれを見ていただいて、審議会からの市に対するご意見を 12 月末の審議会でもいただく予定をしておりますので、そちらで併せてご審議いただく予定をしております。

2 番目の質問で、年度末にこの審議会評価を変えたり、蒸し返すとおっしゃいましたが、変更するというご意味でしたら、変更することがご審議の中かということでしたら、その際に、12 月末に年度評価版もあらためてご覧いただきまして、審議会評価の今回の修正というか、少しニュアンス変えたり、そういった形でご意見いただくことも考えさせていただきますのでよろしくお願いいたします。つきましては、何かございましたらお知らせください。以上です。

○委員

本来の PDCA サイクルとしてこの手順がいいのかどうか即断ができませんが、説明は理解しました。

○会長

ありがとうございます。特にご意見等ございませんようですので、またいろいろ話をしながら行きつ戻りつでも構わないので議論を進めていきいと思います。次に進めていきたいのが、資料 2 の速報版について、例えば構成であるとか、見せ方の工夫についてご意見いただきたいというような事務局側からのご要望です。これについて、目標 1 からでも、2 からでも、どちらからでも構いませんので、ご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。取り組みの状況と、それから、指標の進捗状況について、大きく二つに分けて表現されているということです。内容ももし、こういうのではないかとか、これちょっと表現おかしいのではないかとかいうのがございましたらよろしくお願いいたします。

○委員

まず構成のところで、それぞれの目標についている矢印は、減少している、増加しているということを表しててるのでしょうか。例えば目標 2 の、真ん中の業務部門のところで、年間 1.15GJ/人のところで下矢印が付いています。

増加したほうがいいものと、減少したほうがいいものが混在しているので分かりにくい。直感的に、いいのか悪いのか矢印を見ても分からない。あと 1 点、資料 2 の、目標 2 について運輸部門の温室効果ガス排出量が 32.5 パーセント減少していて、今年も前年から減少していますとのことですが、その理由が、低燃費化が促進されたと書かれている。さらに下を見ると、1 台当たりの温室効果ガスの排出量が、前回値から増えている。まず一つは、なぜ減ったのかという仕組みをご説明いただきたいというのと、長期で見たらこの考察であっているが、今年度の減少分の考察に対してはちょっとおかしいという気がしました。多分、外出数が減ったか何かの方が前年からの減少への影響が大きいのではないかと思います。

○会長

2 点あったと思います。一つは矢印の表現ですよね。増加がいいのか、減少がいいのかと

というのが混在していて分かりにくいという話。もう1点が、1台当たりの温室効果ガスの排出量のが、去年より増えているはずなのに減少となっているけれど、これどうなっているのですかっていう意味ですよ？

○委員

トリップ数が減ったとか、そっちのほうを説明しなければいけないのではと思いました。ここの説明が長期間にわたる説明であれば納得するのですが、前年に対する説明は、トリップが減ったかなにかを説明してあげないと話が通らないのではないかなと思います。

○事務局

1点目、矢印の目標が減少だったり増加だったりするので、初見でぱっと見て分かりにくいおっしゃったご質問につきましては、少し事務局のほうで色を変える、表示・非表示も含めて、増加・減少にリンクした形で分かりやすいように少し検討させていただけたらなと思っておりますので、ご意見ありがとうございます。

○事務局

ご指摘いただいた運輸部門ですけれども、上の考察のところは、基準年度から目標に向けてというところでの考察を記しております。下の表が直近のデータということで載せておりますので、そこを対比すると確かに齟齬そごがありまして、表現の方法を変えたほうがいいかと思えます。下のほう参考値として直近のデータ載せておりますので、この2年に限って言えば上がっていますというような形になるので、ここの表現、上とどう結び付けるかというのは表現を考えたいと思っております。

○委員

直近で見ても1台当たりも増えていて、登録台数が増えているので、データを示さないと、0.2ポイント減少というところの説明がつかないと思います。だから表示項目が増えてしまう、要は参考値が増えてしまうと思いました。

○会長

修正いただくというか、また提示いただいて、またご意見は言えるのですよね？

○事務局

修正したものについてはまた皆さまに確認いただきたいと思えます。

○委員

基本的な質問になってしまいますが、この速報版はどういう方法で市民の方に公表され

るのか、手元に届くのかを知りたいと思いました。

○事務局

速報版のほうはホームページで公表のほうさせていただいています。今後、市役所等でパネル展示をさせていただきます。市政情報コーナー等にも配布をさせていただいております。市民意見の募集も9月中旬から始まりますので、その際もまたホームページやSNS等で、市のツールのほうで発信させていただく予定をしております。

○委員

やはりより多くの市民の方にこの情報を届けたいということでこれを作っておられるかと思えます。見せ方のところについても意見があればということだったのですが、私、最近、活動の中で小学校に出張授業に行かせていただくことがあり、先生方にSDGsについてお伝えする機会もあったのですが、とよなかの環境の最新の情報をどの資料で伝えたらいいのかというので迷ったのと、それがこの資料だとすごくいいなと思いました。

だから一つは、学校現場にも手が届くような配布方法や、もっと言うと、大人だけではなくて、子どもたちがこれを見たときに、とよなかの環境の最新の状況はこんなふうになっているのだなというふうに分かる資料というのはすごく難しいことではあると思えます。私もそんなに数字が得意なわけではないので、このグラフとかがすごく詳細な、正確な数字で書かれているところはすごく意味があると思えますが、もう少しシンプルに、何が起きたら環境が良くなるのかが分かるような資料があると、より市民の人も行動に移しやすくなるのかと思えます。

あともう一つ、少し前の話題になってしまいますが、情報発信のところでお話を聞いている中では、出張授業だったり、私も服のリユース、coralさんと一緒に取り組ませていただいている中で、リアルにその現場を見たりとか、体感して、これ大事だなって感じたら、それをどうやって続けたらいいかな、もっと詳しい情報はどこを見たらいいのかなっていうふうにしてホームページとかを見に行くことになるというふうに思いましたので、そういう開催の情報だとかを、これを見たらどこに書いてあるのかがより分かりやすくなるというのかなと思いました。

服のリユースに関しては、去年の意見交換会からcoralさんにつながらせていただいて、その後、他の市内で取り組まれている団体さんとも意見交換会をする中で、家庭ごみ事業課のリユースのページに今後の開催情報載せていきたいと思いますということでページを作ってくださいって、今後掲載していく予定にもなっているので、そういうところも広く知っていただけるようになるとうれしいなと思いました。

○会長

貴重な意見いただいたかと思えますが、何かコメントなり、あるいはご意見なりありまし

たらおっしゃっていただければと。事務局のほうでもよろしいですし、それ以外の委員の方でもよろしいかと思えます。

○委員

この資料、すごく工夫しているというか、他の行政の資料に比べると随分市民向けに配慮されていると思いますが私の関連で言うと、目標4のみどり率27パーセントについて、前もみどり率って何なのとかいう議論もしたような気がします、この中に、みどり率という言葉と、緑被率という言葉と、緑地面積など、似たような言葉が出てきて、結果、みどり率の目標は27パーセントだけど、及ばなかったので評価Dとされています。けれども、ここ何年かはデータを取っていませんが、みどりに対する満足度を見ると、75パーセントが最終のグラフになっており、イベント参加者数も、コロナ禍というのはありますが、増えています。なので、何をもって評価Dになったのかというのは分かりにくい。

緑地面積という言葉も出てきて、目標は7.17なので、コンマの話になっていたりして、一体どうなればこれが評価Aになるのかということ、みどり率の向上とはなりますが、そのみどり率が非常に多様化していて、森林部分は少し減少しているとのことなので、草地や、屋上緑化を増やすというところに懸けておられるのかもしれないですが、その辺りを読み取る必要があります。

先ほど、市民がどう行動したらいいか分かりにくいというご意見がありましたけれども、どうやればみどり率というものが向上し、評価がAになるのかというところが、言葉がたくさんあって分かりにくいので、まとめ方としてどうしたらいいかと思えます。どうやったらいいのかというところを数字だけから読み取らせるのではなくて、今後こういうふうにしていきますということが簡潔に分かればいいかと思えます。もうこれ以上文字増やせないし、スペースもなさそうですけれども、みどりに関して言いますと、満足度はすごくいいといえいい。イベント参加者数は若干低いけども、目指しているのが15万に対して、14万ぐらいで結構頑張っていると。市民1人当たりの面積はコンマのところですがこし低いと言われると、これが評価Dになったのが総合評価として分かりにくいっていうのと、何を指したら良くなるのかが見えにくいところがあるので、もしこのスペースの中で改善できるのであれば、もう少しシンプルに分かりやすくしていただくか、なぜ評価Dになったのかの的確に分かればいいなというふうに印象を持ちましたので、事務局のほうでご検討よろしくお願いいたします。

○委員

みどり率というのと、緑被率、公園・緑地面積というのは、われわれの分野でもいつも使い分けるとき迷っている複雑な言葉になっているのですが、緑被率については投影面積だと思いますし、みどり率の対象は、草地、芝地、屋上緑化、もしかしたら水面も含めているかもしれませんが、少なくとも、13ページのところでアスタリスクか何か加えて、みどり

率の対象は、緑被率の対象は、を入れるといいなというふうには思っています。

あともう一つ、市民1人当たりの公園・緑地面積の、緑地の使い方なのですが、緑地の使い方には二つありまして、一つは、広義の緑地で、緑に覆われた土地全てを緑地。これでいきますと、みどりも緑地という言葉が本当は正しいということで、オープンスペース全体を表す場合と、この市民1人当たりの公園・緑地面積で使っている緑地は、恐らく都市計画緑地で、いわゆる公園の一部になります都市緑地だけを扱っているのだと思います。私もこの緑地の使い方、非常にいつも悩ましいところです。

行政用語でいくと、公園・緑地面積というのは正しい言い方なのかもしれませんが、下のほうで、公園面積の微増と人口の増減によりということ、ここで公園面積というふうに出てきます。下に市民1人当たりの公園・緑地面積というふうに出てきます。これ、場合によっては、公園等面積ということで緑地という言葉省いてもいいのかなとも思いますし、都市公園ということにしてしまっ、行政管理している緑地を、公園等なのか、都市公園等の中に包含してしまうと、市民の方々に行政用語を詳しく説明する必要はありませんので分かりやすいのかなというふうには思います。

○事務局

委員の3名のご意見それぞれいただきまして、恐らくこの見やすさ、伝わりやすさ、その辺りもう少し改善できるのではないかとことだと思えます。恐らくこの情報の出し方というのは、正確なものを出さないといけないということと、できるだけ分かりやすく、伝わりやすいものを出すという、相反するものも性格としてありますので、この辺り、皆さんに今日いただいた意見を参考にしながら、どの辺りを落とすところにするのが一番良くて、われわれのこの環境報告書に合うのかなというのを探っていきたいなというふうに思えます。

あと、目標4のところのみどり率に関するところの表現もいろいろ工夫が必要だとあらためて思ったところですが、今のご意見等を踏まえて、公園みどり推進課から何かありますでしょうか。ご意見とか、補足するようなこととかありましたらお願いします。

○事務局

今、各委員のほうからいただいた意見で、まさにおっしゃるとおりで、みどりの評価、本当に難しく、総評的な評価だけで言うと、やはりこういった形の傾向にはなっていますが、片や満足度というところではそれが高い評価になるというところですので、評価の表現とか、その辺りについては一つ工夫を、今後していく必要があるのでは、事務局とも相談していきたいと思っております。

あと、まさに委員がおっしゃった緑地の取り扱いですが、これについては、行政的にはやはり都市計画緑地ということで、市の管轄緑地を表現するというところで、よくご存じだと思っております。その辺りの一般市民の方々の理解という意味では、確かに混在する傾向

にあるかもしれませんが、公園等という表記ご提案いただきましたけども、その辺りも含めて表記の工夫、米印で補足等も含めて、これも事務局と相談しながら対応していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○委員

何点かありますが、まず、昨年の中間報告書では、家庭でできることや、市内の取り組み事例など、いくつか文章で事例紹介が目標ごとに載っていたと思いますが、今回はそれをやめて数値の表を入れられています。どっちが正しいとか、どっちを支持するとかはありませんが、なぜそれを今回、数字に変えられたかという経緯については事務局に説明していただきたいということが1点。

それから、昨年度も実際、パネル展示とかでされて、市民の方から意見は一定集まったが、感想めいたものが多くて、PDCA に使うような具体的な提案であるとか、議論には至らなかった、どちらかというと感想的なことだけになって、これではちょっとみたいなことを昨年の担当者などから聞きましたが、そういったことが今年も同じような形で懸念されるのであれば、どういった意見が欲しいのか、そういった意見をもらうためには逆算してどういう情報を出さないといけないのかということを議論していかなければいけないと思うんですけど、すこし事務局の聞き方が抽象的で、レイアウトについて意見があればご意見くださいのようなアバウトな感じになっていて、それよりも、どういような意見を欲しくて、そのためにどんな見せ方をしていかなければいけないかという議論を本来していかなければいけないから、そのためには事務局はどんなことを考えているのかということをもう少し教えていただかないと、どうしても表面的な見せ方とかだけにとどまってしまうのではないかという気がしました。その辺はもう少し事務局の考えを聞きたいと思ったところです。

それと、今年の3月に環境基本計画の改定版を出されていますが、今回は昨年度の評価なので、まだ目標値は昨年度の数値を使っているということだと思います。例えば目標3とかに載っているごみの数値とかは、改定の前と後で数値は変わるわけですけども、今回の目標3で使っている数値は従来型の、改定前の数値が記載をされているのかと思います。ところが、目標2のところ、下のほうの表のところですね。部門別の温室効果ガス排出量が各部門で何パーセント削減とか、再生可能エネルギーの導入のキロワットは具体的に数字が入っていますが、これらは改定後にこの目標を定めた数値だと思うので、目標ごとに、改定前の数値を載せているのか、改定後のものも交ざっているのか、報告書全体で数字が交ざっているという気がいたします。

あと、目標2については、大目標の38.3パーセントというのも改定後の数値になりますので、これについてもどこに統一していくのかということだと思います。従前の、5年前に改定したタイミングで言うと、旧の数字を使った間は全部、旧の数字で統一していたという認識でしたが、今回、どういうふうにしていくのかということについても、確認と、整合を合わせていただきたいかなと思うところです。

最後に、目標 1 については、先ほど意見交換会の振り返りで発言させていただきましたが、現行の目標 1 の課題や、今後の展望については、どうしても個別の活動ベースの内容が中心になっていますので、この情報の提供という視点での内容も追記していただきたいなと思うところです。

○会長

委員がおっしゃってくださった三つの視点、こちらのほうで事務局のほうのご意見を聞きたいなと思います。まず①の PDCA を意識した、市民の方からどういう意見もらったらいのか、そのための表現というか、見せ方、工夫だというお話ですけど、これに関してはいかがでしょうか。

○事務局

委員のほうからご意見いただいたとおり、前年度と表現の仕方、内容を少し変えております。PDCA サイクルの中でということで最初にもご意見いただきましたが、速報版では、速報値と、事務事業の実施について、2022 年度の取り組みということで、こういった事業を行いました、併せて、進捗状況はこうですってということで、全ての指標について誌面を広げて掲載させていただくように変更させていただきました。今後、市民意見をいただき、評価をいただいた、それを受けさせていただきます、従前載せておりました、市民の人がしていただくことや、事業者での取り組み等のことは、実施結果をこのように見直した後に、こういったことをお願いしたいということや、市の事業でこういった取り組みを進めていきますということで、見直しのところで、年度評価版に例年も載せておりますが、そちらの方で掲載していこうというつもりでこれまで進めておりました。

2 点目、市民意見、今後いただく際に、どのような意見を求めていくか。前年度意見の数とか、そういったことにご意見をいただきましたが、率直にこの誌面を見ていただいて、いろんな年代の方が見ていただきますし、いろんな観点でご意見いただきたいと思いますので、市の施策だとか、数字、そういったところで、今後こういった取り組みが必要だとか、まさにこういった情報が欲しいとか、そういったことをいろんな意見をいただけたらなというふうには考えております。

あと、地域計画のことでご意見をいただきまして、目標 2 のほうは昨年、環境基本計画を改定いたしました。同じく地域計画のほうも、正式名称は豊中市地球温暖化防止地域計画ですが、1 年前倒しで、ゼロカーボンシティに向けて、その前の年に改定しております。地域計画のほうでは、進行管理につきまして、とよなかの環境のこの誌面で公表するということを決めておりますので、地域計画、2022 年度には進んでおりましたので、新しい情報、最新の情報で目標 2 は掲載しております。その他の目標は従前どおりで、2022 年度の内容となっていますので、改定前の、第 3 次豊中市環境基本計画の内容を書かせていただいております。

○事務局

最後の目標1について、今後の展望、活動のヒントのこの書き方は一番初めにご意見いただいておりますので、その辺り踏まえて修正していきたいなというふうに思います。

○委員

今のご説明に対して2点ほどあります。目標2は、温暖化防止地域計画の進行管理を兼ねているので先に目標入れましたというご説明でしたが、手元に新しい地域計画がないので、新しい環境基本計画だけを見て言うので違ったら言っていたきたいのですが、この新しい環境基本計画の関連指標の中に、電気自動車の割合が新しく項目として追加されていますが、それは載っていないと事前に見て思いました。そこは地域計画の進行管理には含まれていないということでしょうか。

それから、先ほどの事務局のご回答の中で、今回は速報版として数字を出すことにしたと言って、それを通して数値や施策を知ってもらってみたいといったニュアンスの回答がありましたが、数値を把握するという意味では十分な数値を出されているとは思いますが、市の施策を知るという意味においては果たして前と今回とどちらがいいのかとか、もっと違う形で市の施策を知ってもらって、もっとこんなことをしたほうがいいのではないかなと思うので、そこはもう少し検討というか、議論の余地があるのかなと思いました。

○事務局

委員おっしゃっていただいた内容も、見せ方の延長といたしますか、考え方をしっかりとぶれない考え方で、こういう考えで見せていますというのをはっきりと持っておかないといけないと思いますので、その辺り整理しながら、今この数字を出しますというのが即答は出来なくて申し訳ないです。検討させていただいて、年度評価版のときにはきちんと整理していきたいと思います。

○委員

今、豊中市のホームページを見たところ、新しく改定された地域計画にも電気自動車の割合が新しく追記されているようなので、それを目標2の項目としてないのがいいかについてはもう一度事務局でご検討いただければと思います。

○委員

環境目標についてなんですけど、この文言というか、タームですね。環境目標が、冒頭、速報版の下に5つ挙がっておりますが、『みどり率27パーセントで…』のところですが、このタームはもう決まっているのか、今、変更が可能なものなのか、位置付けというか、この文言について教えていただいて、文言が修正可能であれば、『みどり率27パーセントで…』の

辺りを、みどり率 27 パーセントに向けて育むとか、保全するっていう言葉が欲しいです。

短いほうが分かりやすいというところもありますが、『みどり率 27 パーセントで心豊かな』を一つのキーワードにされていますが、実際にはみどりを育むとか、育成するとか、保全するという、そういう実行的な文言が入れば良いと思っているので、修正可能なのか、もうこれでどこかでフィックスされているのかということについて教えていただけますでしょうか。

○事務局

そちら、目標になっておりますので、基本計画のほうでは、『みどり率 27 パーセント』、これは、固定ですが、先生がおっしゃるとおり、これがストレートに分かりやすいかというところもありますので、ここは変える予定はないですが、中の表現で分かりやすくとか、検討していきたいなと思っております。

○委員

可能な範囲で。どこかで決まっているとあまり容易に変えられないと思いますが、それぞれの目標値、結構数字が細かに入っている 2 番や 3 番に比べて、4 番、5 番、結構あっさりしていて、あっさりしているのはいいですが、先ほど申し上げたように、『みどり率 27 パーセントで』という日本語も少し分かりにくいし、27 パーセントにするには何をすればいいかという、やっぱり人が育成していくとか、保全していくとかっていうことが中核の言葉として欲しいので、入るようであればご検討ください。

○会長

目標の表現は、今、変えられないっておっしゃっていますけれども、変える余地っていうのはいつのタイミングでしょうか。

○事務局

目標名自体は、基本計画の見直しの際になります。令和 9 年度までこちらの目標になります。その際に変更の場合は変更となります。

○委員

15 ページのところは審議会からの意見になりますので、自分たちからの意見だとするとしっかり見ないといけないかと思えます。

○会長

もうそろそろ入らないといけないかと思っていたところで、委員が口火切ってくださいだったので、実際にこの豊中市の環境審議会からの評価というところですね。

○委員

15 ページのところで、目標 2 のところを読んでいて、目標 2 の丸の二つ目のところ 2 行目で、コロナ禍での省エネが進んだということですが、ご説明のところでは、コロナ禍で省エネが進んだとご説明されました。コロナという困ったことが起こって省エネが進んだというのは、コロナ禍っていうのは、何となくコロナの下でという感じで言っているのかと思いますけどね。そもそも、本当にコロナで省エネが進んだのかという評価はすごく難しいので、この辺りの文言は、省エネが進んだと断言できるのかというのはちょっと個人的には不安だなと思うので、個人的には、ライフスタイル、ビジネススタイルの変化は生じたというところは多分そうだと思いますが、省エネが進んだ理由なのかというのは、現実として減っているのかとは思いますが、そこまで私、自信がないなと思ったので、取りませんかっていうお話です。後半のことは、その後、with コロナっていうところに対応しつつもう一回考えないといけないというのは同意ですけども、コロナの評価というのはすごく難しいなと思います。データの断言していいのかなとは思いますが、文言的にはちょっとおかしいなと思いました。

○会長

『コロナ禍での省エネが進んだ』って書いてありますが、ここの部分はエビデンスも具体的にないので、削除でしょうか。

○委員

エビデンスは排出量が減っているということでしょうか。本当にそうなのかというのは少し自信がないと思いました。

○事務局

去年までの評価として、コロナによって在宅時間が増えたことなどによりエネルギー使用量増えましたという評価をずっとしてきましたが、今回のこの意味合いとしては、皆さんがコロナに慣れてきて、コロナで在宅時間増えている、制限されている中でも省エネが進んできたという意味合いでのコロナ禍での省エネで、コロナが理由で省エネが進んだというご説明ではないです。表現方法が、今、おっしゃったように、すこし誤解をしやすいのかなと思うので、考えていきたいと思います。

○委員

多分、困ったことっていうのがコロナ禍で、おっしゃられたのは、with コロナでの省エネが進んだっていうことですね。

○事務局

はい。

○委員

意味は分かりました。

○会長

他にこの審議会からの評価の中身でご意見があったら、表現方法や評価の仕方、ご意見が欲しいとおっしゃっているので、ご意見があればおっしゃってください。

○委員

意見が3点ありますが、一点目が、目標1の二つ目の意見でして、2行目、インターネットを最大限活用し、オンラインイベントやSNS、動画等、さまざまな手法でというところ、これ、割と昨年度のコメントに似通っていますが、今回、せっかく環境情報の提供があつて、いわゆる従来のインターネット、SNSだけではなくて、対面でも伝えていくことがある、せっかくさまざまな発信の仕方があるということが分かってきたのに、審議会評価では従来型のコメントになっているので、この環境情報というのはさまざまな手法があるということと、いろんな形で伝わっているということの評価として入れていくべきじゃないかなということで、先ほどからの繰り返しですけども、思ったということが1点です。

2点目は、目標2の二つ目。これについて私は二つ思ったことがあつて、一つは、昨年度も排出係数を固定するのか、変動するのかの議論があつたと思いますが、3月の最終の報告書では両方を見せていただいて変動を確認しました。けれども、今回のところでは多分、排出係数の変動のグラフしか出ていないと思います。この間ずっと排出係数下がってきているので、排出係数が変動したことによって温室効果ガスの排出とか減ったのではないですかというところについてどう分析されていますかということをお尋ねしたいというのが一つ。

あともう一つ、この目標3の説明が分かりやすいですけど、私も施設の運営をしている中で、2020年度が一番家庭にいたと思います。2021年度はwithコロナで少し外へ出だして、2022年はさらにもう少し、すこしずつ、ずっと在宅とは限らない暮らしとかに変わりました。それはさっきのwithコロナでも同じですけども、こういったことが恐らく減った要因であつて、ずっと同じ在宅する中の、在宅下における工夫で省エネが進んだというよりも、細かく見たときのライフスタイルが少しずつ変わっていったことによる減少じゃないかと思います。目標3はかなり分かりやすく説明されているので、例えばそういうふうに、動向を少しうまく説明されるといった書きぶりが目標2でも必要なんじゃないかなと思ったというのが2点目です。

それから3点目、目標4のところで、これ単純な話ですけど、目標の1行目、みどり率、緑

被率、みどりに対する満足度の調査は今年度行っていませんが、今年度とはいつかという話なので、目標2や目標3は令和何年度って書いているので、ちょっと細かいですけど、これも具体的年度表記をしていただくほうがいいのかというところなんです。3点、以上になります。

○会長

これは修正必要なものですね。事務局のほう、修正していただけたらと思いますけれども、よろしくお願いします。

○事務局

承知いたしました。

○事務局

先ほどいただいた意見、大きく四つあるかと思いますが、こちら、審議会からの評価ということで、当然、いただいたご意見をベースに修正のほうさせていただきます。あと、2点目にありました排出係数の変動と固定のところは、両方見せたほうがいいのかというご意見という理解でよろしいですか。

○委員

両方載せてくださいということは誌面上難しいのは承知しているので、先ほどの委員のお言葉を借りると、エビデンスがどこにあるのかっていう話でいうところの排出係数はどうなっているのですか、そのことはこのことに影響してないですかということを事務局に確認したかったという意味になります。

○事務局

分析のところ、単に答えだけを見せるのではなくて、もうちょっと分かりやすい、固定と変動って大きな話だと思いますので、その辺り踏まえた表現方法を考えていきたいなというふうに思います。

○会長

みどり率のところですね。その年度の表記です。

○事務局

これは直感的に分かりやすいようにということで変えていきます。

○委員

先ほどのご質問に関連するかもしれませんが、要はどうして減ったのか。減ったといっても非常に微妙な減り方だと思います。要因分析のところでは排出係数の問題というのも要因の一つだろうし、それから、もしかしたらライフスタイルが変わったのが要因かもしれないけれどもというように、結局なぜ変わったのか、なんでこれしか変わってないのかっていうところが伝わらないと、例えば委員のおっしゃられたような子どもに伝えるときに、結局なぜなのかいということにならないですか。

今、これから分析しますというふうにおっしゃっていただいて非常に頼もしいですけれども、この数字見たらまずその、なぜなのかと思うのが普通じゃないかと思います。そこが見えてないまま数字、もちろん専門家として見るのは構わないですけども、市民に向けて出すのであれば、なぜなのかいというところ、これ、やはり基本だと思います。そこを、これはこうですか、これはこうですか、この要因を見せたほうがいいですかというそこじゃなくて、その数字見たらもう直感的に、これはこうじゃないかみたい。それが無いといけないのではないかと思うわけです。さきほど委員のおっしゃったポイントが非常に重要なので、それは一つの参考というか、ヒントになると思います。そこを受けて、結局どうなのか、何が原因だったのかって、この分析。これは必ずやっていただきたいなと思った次第です。

○委員

まずみどりで行きますと、『今後もみどりの確保や育成を行うとともに』という、この確保と育成、これが保全につながるというところだと思います。さきほどご指摘がございましたけれども、この辺りがすごく重要になってくるのかなというふうに思っております。それであともう一つ、コロナ禍、with コロナ、アフターコロナと出てきて、このアフターコロナの言葉の使い方ですが、これ、今の社会は、特に日本における5類になった5月以降は、アフターコロナというふうにして表現していいのか、with コロナなのか。当初、よくコロナ禍で、パンデミックのときに、with コロナ、アフターコロナという時期区分みたいなことよく議論しましたが、今の社会情勢をアフターコロナというふうにして本当に表現してしまっているのかなというふうに思います。これは市のほうで他の行政用語と違いますか、文言を伝えるときにどうなっているのかということ。私もどう使っていったらいいのかって迷っているところなので、アフターコロナという言葉を使っていいのか、場合によってはコロナの感染者は今、非常に増えていて、まだ特効薬もなく、熱冷ましでごまかしているみたいな状況でアフターコロナという言葉を実際に使ってよかったのかなというふうに思いますが、この辺いかがですか。

○事務局

事務局です。with コロナ、アフターコロナの表現につきましては、先生のご意見や社会情勢とももう一度検討させていただきます。

○委員

2回ほど出てきますが、大事なのは、ライフスタイルやビジネススタイルということが変化したと、コロナということをつピックにということだと思います。今後もそういう変化に対応していくということが大事だと思いますので、少しアフターコロナだけ気になりましたので精査していただければというふうに思います。

○会長

この審議会評価に関しては議論する時間がまたあると思いますので、今日はこれで、今の段階の状況でご意見頂戴したという形でよろしいでしょうか。

○委員

先ほどのご指摘とほとんど同じですけれども、何年から何年が with コロナの時代などは、後から審議会の資料を、5年後、10年後先の人が見ても分かるようにどこかに定義を付けておけば十分かなと思います。社会ではこういうふうに言っているからというよりか、私たちこの豊中の審議会ではここからここまでをそういうふうにしめたとかでもいいと思って、後から分かるようにするというのが非常に大切じゃないかなというふうに思いましたので言わせていただきました。

○事務局

今、皆さまからご意見いただきました内容はいったん、公表は先となりますが、会長に修正したものを見ていただきまして、またその結果を審議会委員のほうにもお知らせさせていただきたいと思っております。実際は年度評価版のほうに具体的に合わせて公表となります。まだ少々お時間ございますが、進めさせていただきますので。ありがとうございます。

○会長

そろそろお時間近づいてきましたので審議の方を終了します。